

デジタル時代にデータを活用するための3つの必須条件

～グレートデータの設計方法

データはあらゆる場所に遍在し、世界中で生み出されるデータ量は、2年ごとに2倍のペースで増加しています。

新しい「ムーアの法則」。



2013年、
4.4 ZB（ゼタバイト）

2020年、
44 ZB（ゼタバイト）

インフォマティカは、激増するデータ量への対応だけでなく、その活用法も強化しています。

1

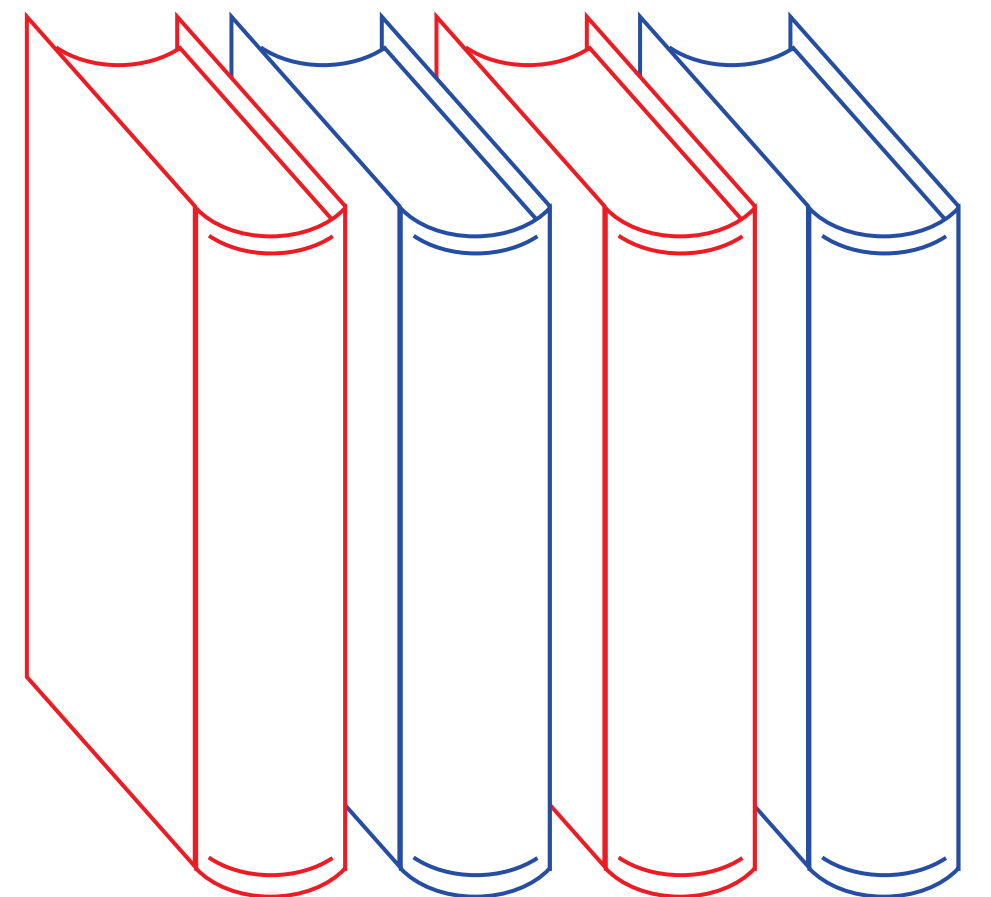
引き続き、**企業の生産性向上**に焦点

2

顧客エンゲージメントと
業務上の意思決定の向上に、
リアルタイムにデータを活用

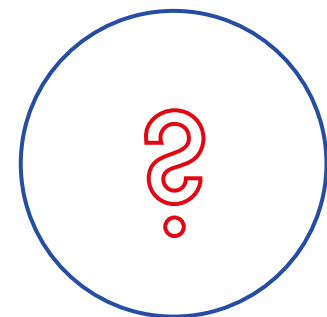
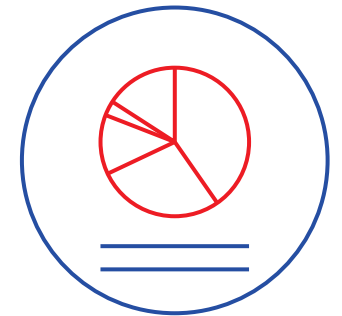
企業の生産性向上

従来、IT環境で生成されたデータは単なるレコードとして保管されていました。



その後、これらのレコードを分析することで、次のようなことが分かるようになりました。

- 売上高はどれくらいか
- 売れ行きが良い商品はどれか
- 業績が良い地区はどこか

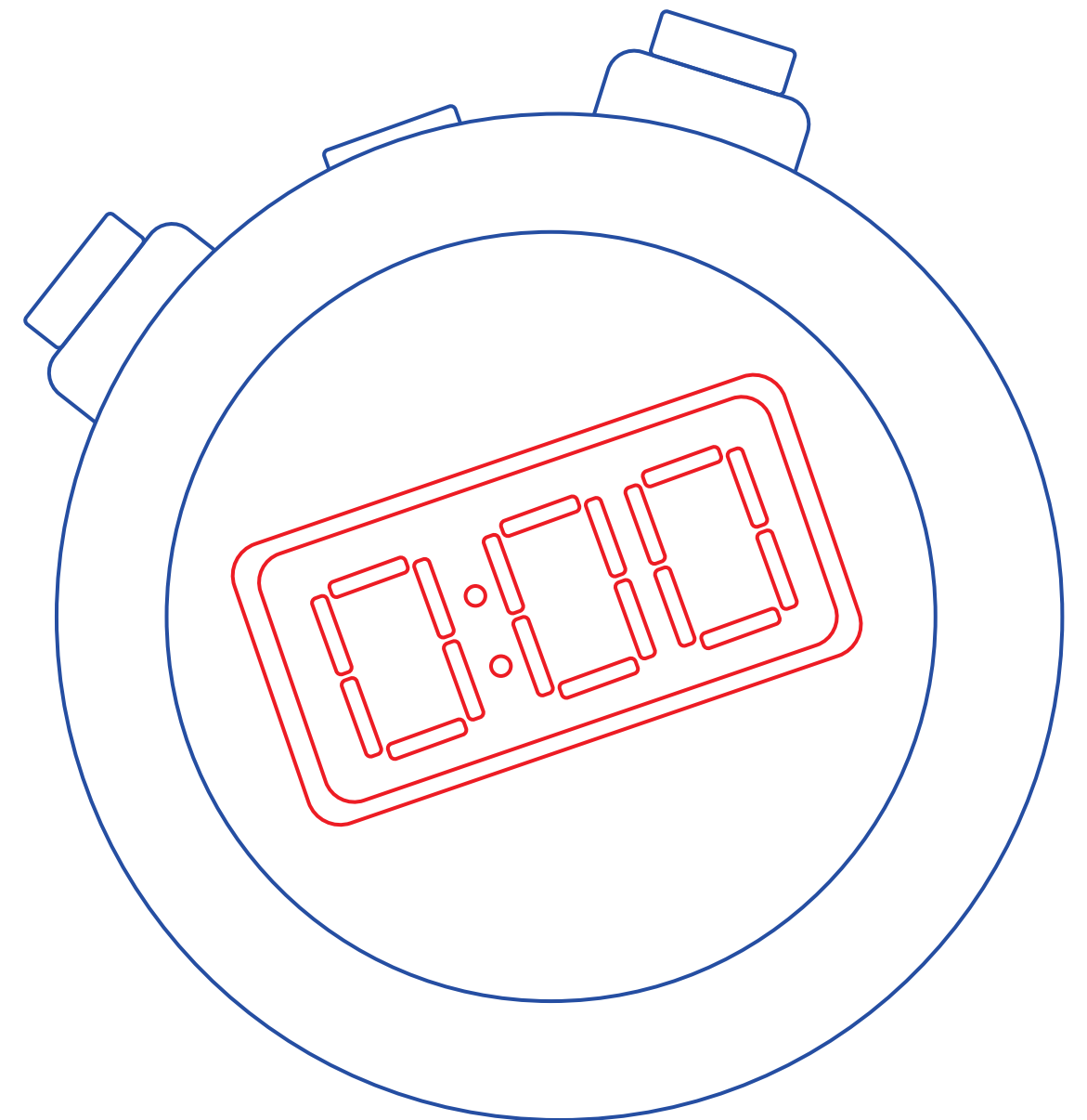


また、これらの履歴データを使用して予想や予知までも行うようになりました。

この機能の重要性は、今も変わっていません。

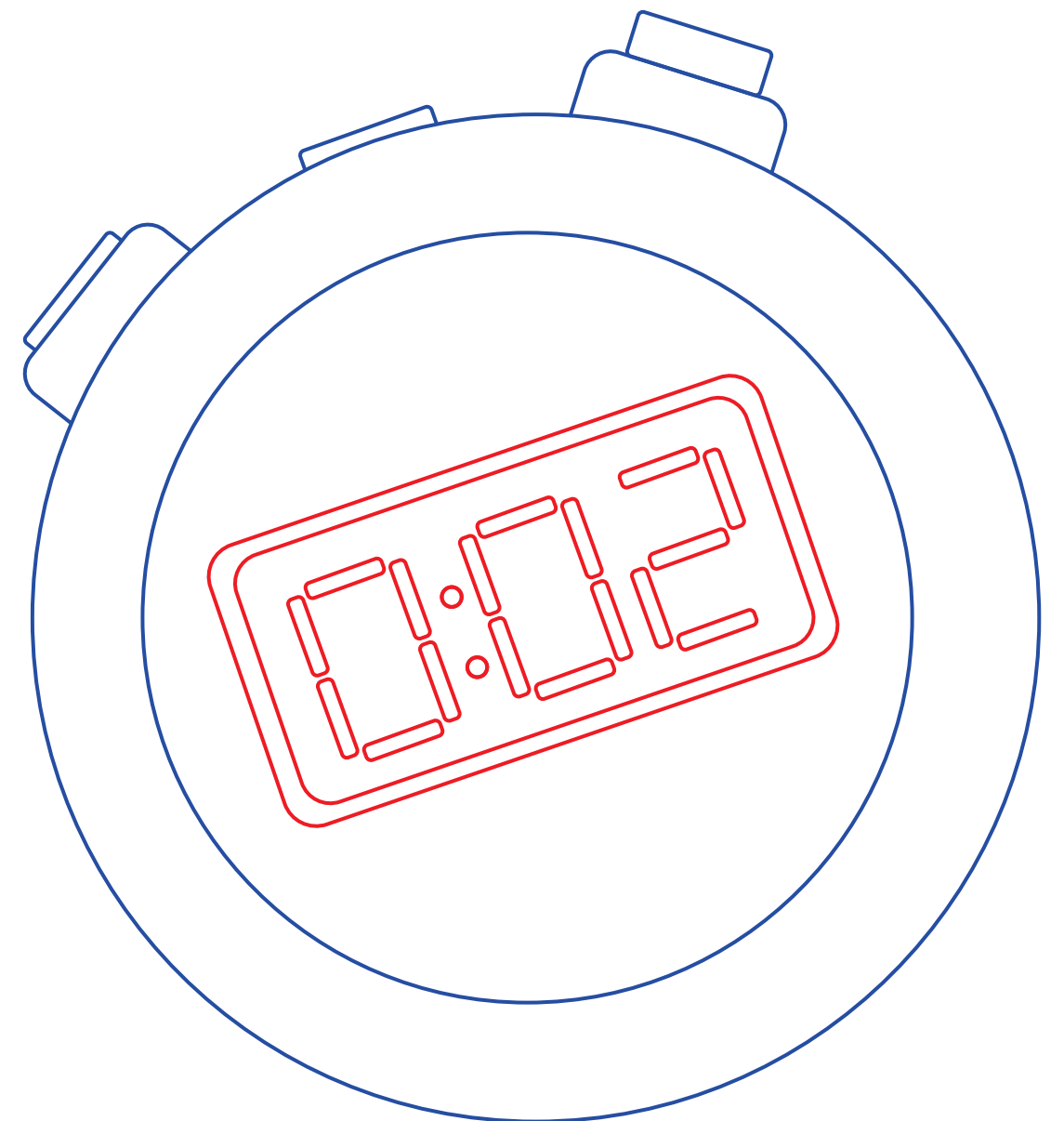
意思決定、エンゲージメント、イ ンタラク션을リアルタイムに 促進、最適化

企業は、さまざまな活動
やイベントの発生に即応
することで、業務上の意
思決定やカスタマーサー
ビスの質を高めたいと考
えています。



リアルタイムのアクションによって以下が促進されます：

- 運用および業務上の意思決定
- リアルタイムのコミュニケーションと提案
- 顧客に代替案やプロモーションを迅速に提供



これらすべての鍵
となるのがデータ
です。

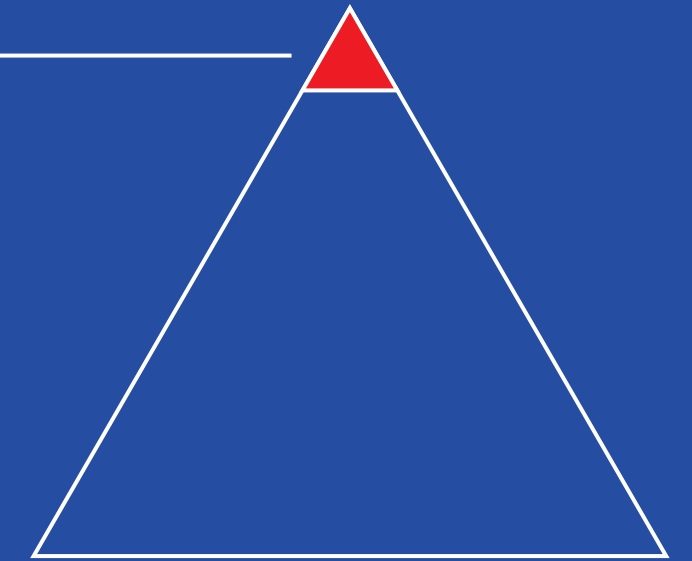


ビジネスリーダーは、データは従来の環境を根本から
変える存在であると考えています。

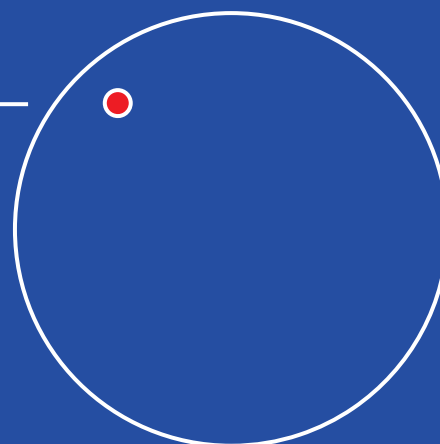
経営幹部の97%が、データは戦略
的なものであると答えています¹。

しかし誰もが自社のデータ活用法に
自信があるわけではありません。

- データの活用について、競合他社と同等か優れていると考えている経営幹部は、わずか15%です²。



- 保有している情報の価値を完全に引き出せている企業はわずか4%です³。



しかし、企業が競争優位性を
得るためにデータを活用して
いる一方で、多くの業務アナ
リストは次のようなデータの
問題を抱えています：

粗悪な品質：データガバナンスが欠如した状態でデータを収集

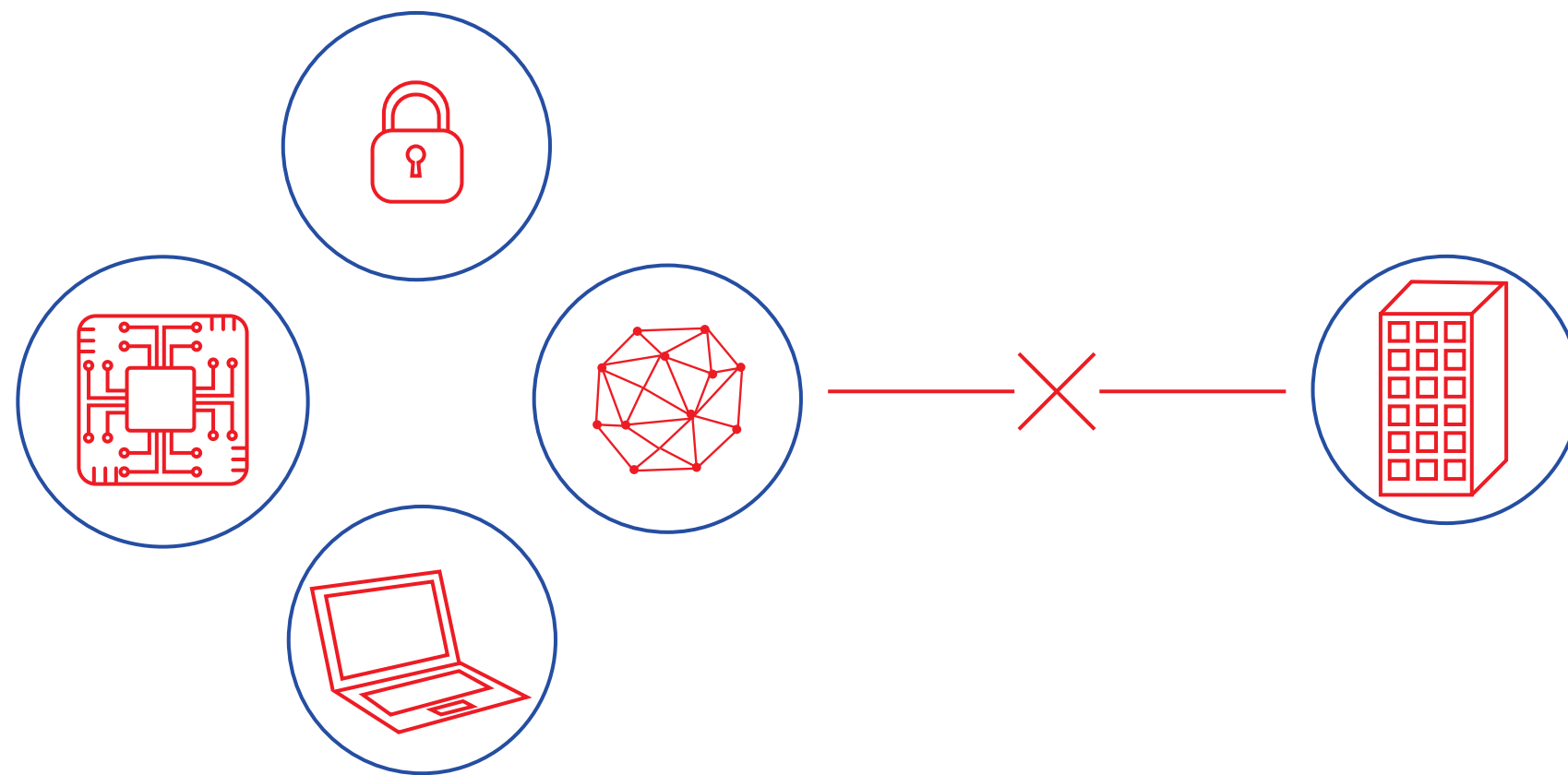
整合性の欠如：同じ顧客のデータであるにも関わらず部門間で整合性がない



提供の遅さ：データサイエンティストが有意義な分析の前処理としてデータラングリングに費やす時間が80%に上ることもあります⁴

安全性の欠如：機密性の高い顧客データをマスキングせずに、アナリストが使用する場合があります

なぜ多くの企業がデータを
うまく活用できないのでしょうか。

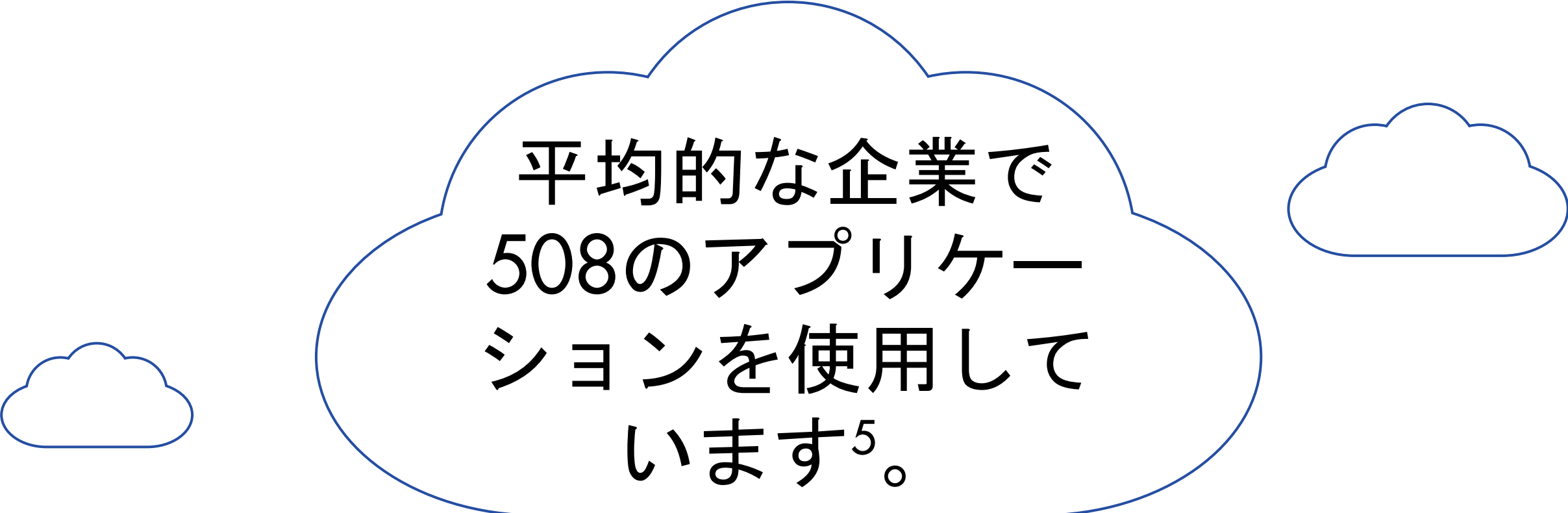


原因となっている4つのトレンド



トレンド1 コンピューティング

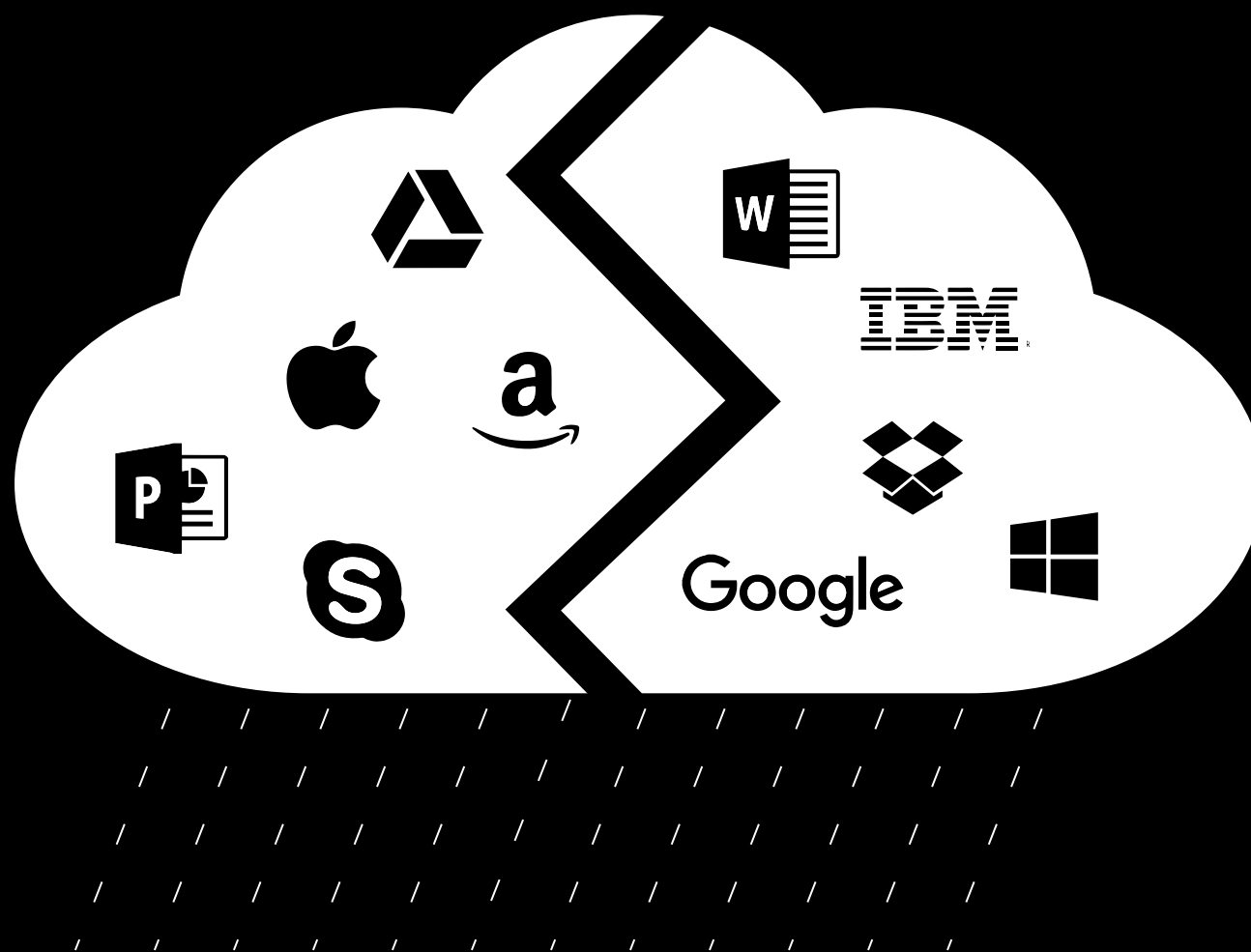
企業は、より多くのアプリケーションをクラウドで利用するようになっていきます。



平均的な企業で
508のアプリケーション
を使用しています⁵。

企業は、モノリシックなアプリケーションスイートよりも、最適なアプリケーションを組み合わせ（ベストオブブリード）を使用することを選ぶようになっていきます。

M&A（企業の合併・買収）のペースが変わらないことが、アプリケーション戦略の最新化に対するプレッシャーとなっています。




結果として...

ビジネスプロセスをサポートするために
すべてのアプリケーションを連携させよ
うとする、データの悪夢。

トレンド2 データ

これまでは、収集するデータは構造化され、十分に形式化されていました（トランザクションデータなど）。

今日、データはサイズが大きく、構造化も不十分で、顧客とのあらゆるコミュニケーション手段（ソーシャルメディア、インスタントメッセージ、センサーデータなど）が含まれています。



結果として...

データを理解して活用するために、
複雑なプロセスが必要。

トレンド3 アナリティクス

これまでは、イベントの発生後に成果を判断するデータ分析に重点が置かれていました。

今日、企業はリアルタイムの予測や事前の対策にデータを活用したいと考えています。

また、データサイエンティストがデータを実験する場と、獲得したインサイトを業務へ迅速に反映する方法を提供したいと考えています。



結果として...

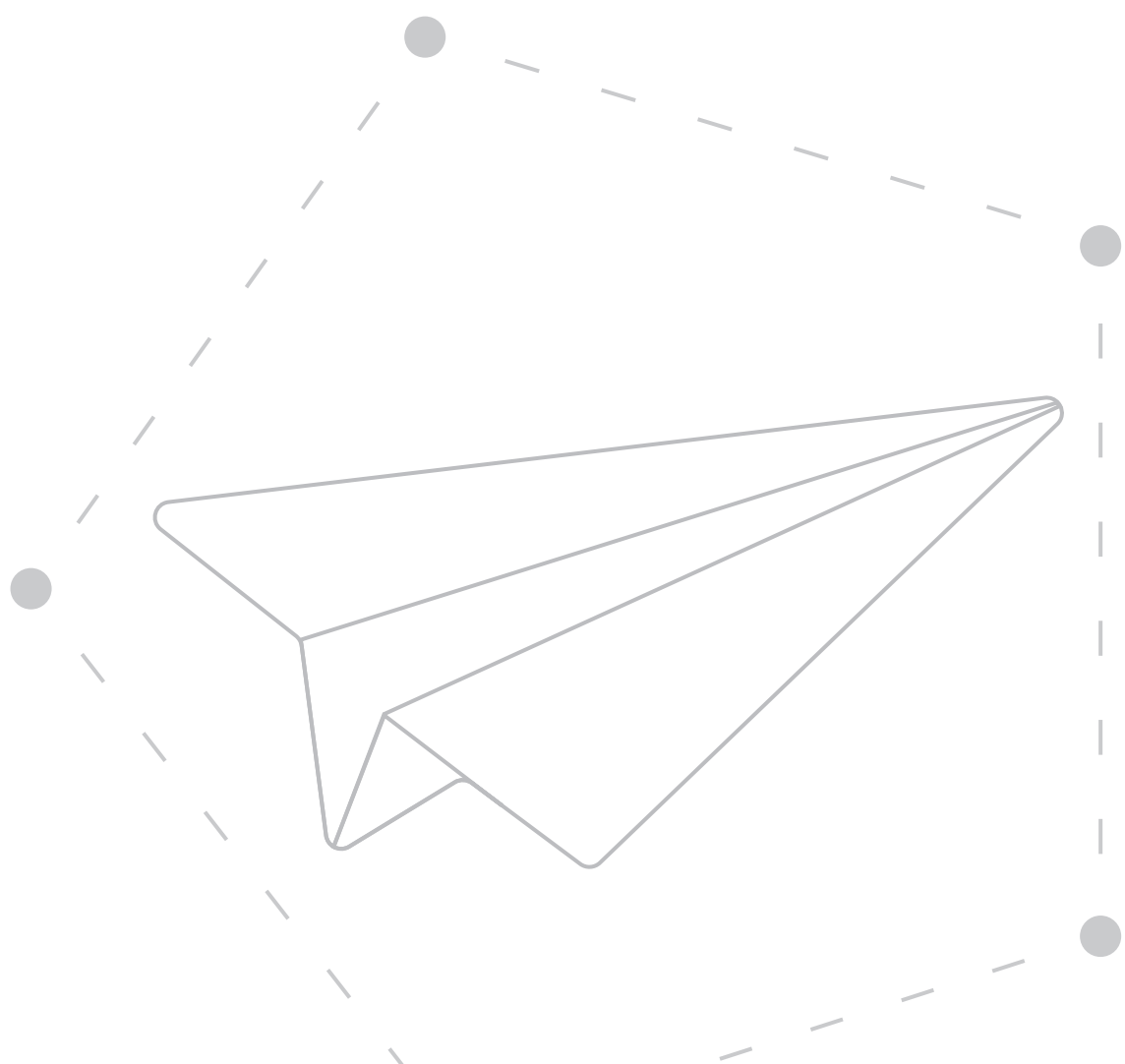
すべてのデータをまとめて、業務アナリストが精度の高い迅速な意思決定を下せるようにするには、複雑でスピーディなプロセスが必要。

トレンド4 データ セキュリティ



従来のデータセキュリティは、アプリケーション、デバイス、データセンターの境界を防御することで実現していました。

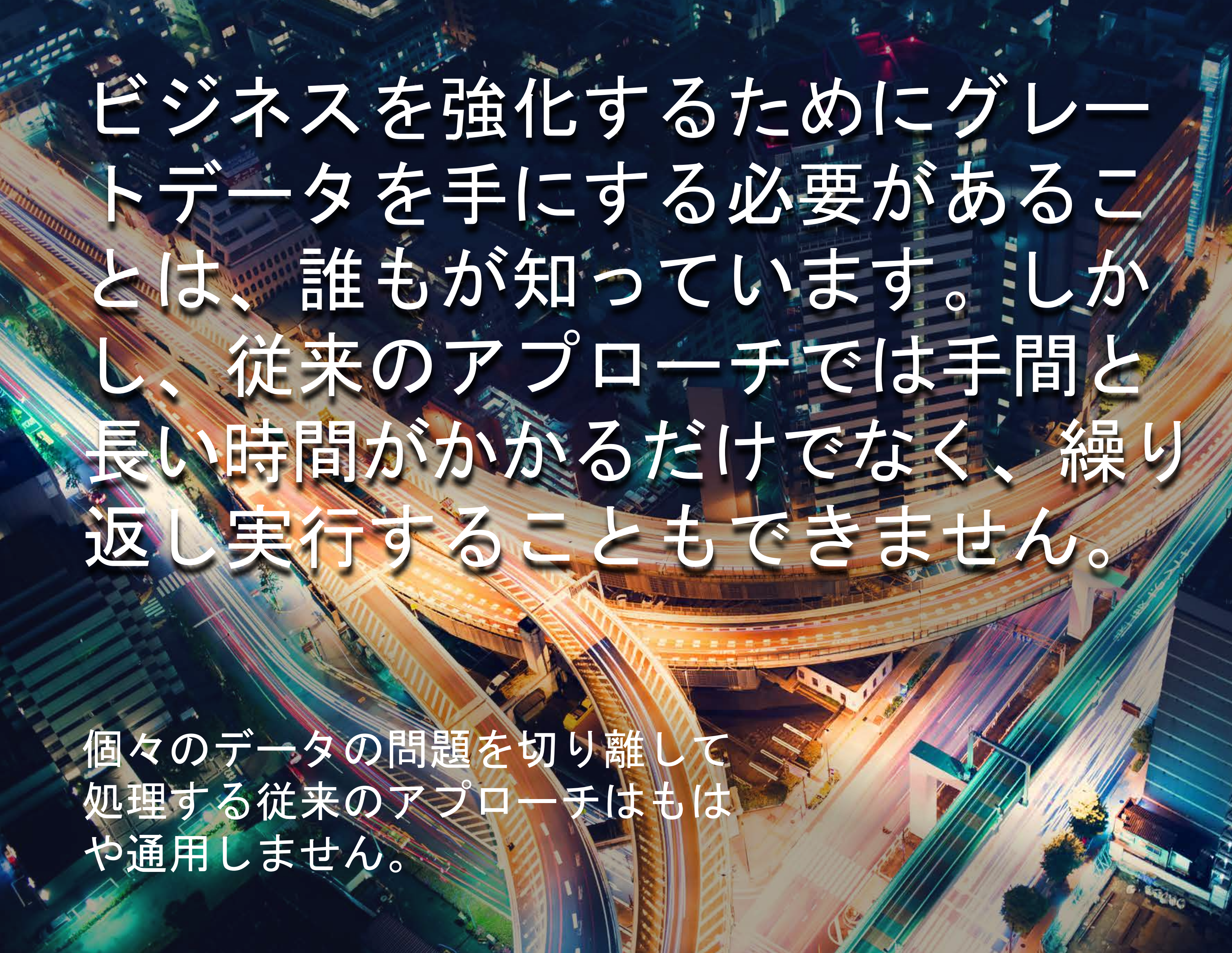
今日、データは元のコンテキストから離れてあらゆる場所に移動させることができなければなりません。





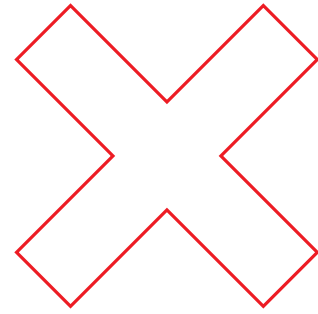
結果として...

機密データを移動の前に特定して分類し、ポリシーとルールに従って管理することでコンプライアンスを確保することが必要。

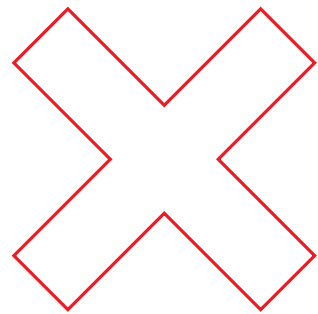


ビジネスを強化するためにグレートデータを手にする必要があることは、誰もが知っています。しかし、従来のアプローチでは手間と長い時間がかかるだけでなく、繰り返し実行することもできません。

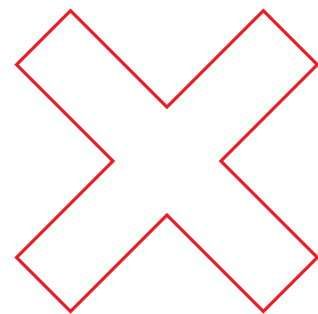
個々のデータの問題を切り離して処理する従来のアプローチはもはや通用しません。



手作業でのコーディング - 長い時間がかかり、
拡張性がない



数少ない開発者への依存 - コストがかかる



開発者自身が選んだツールを使用 - 選んだ開発者
自身は良いが、離職時の引継ぎが困難



新しいアプローチが必要です。

自社の独自性の基盤になっている他の
業務機能と同様に、データ管理を中核
的な業務機能にするアプローチ。

グレートデータ（クリーンかつ安全
で関連付けられたデータ）を、すべ
てのユーザー、アプリケーション、
プロセスへタイムリーに提供できる
アプローチ。



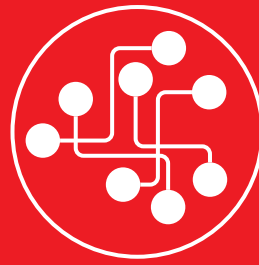
自動化され、
繰り返し実行が可能。

どこでも。

いつでも。

グレートデータの設計 で考慮すべき 3つの検討事項

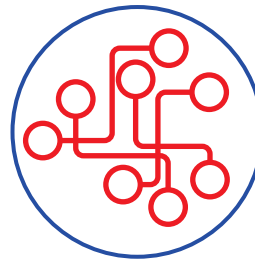




#1

サイロ化したプロジェクトから 企業データ管理への移行

企業データ管理アーキテクチャは、あらゆるプロセス、ユーザー、アプリケーションに適正なデータを継続的に提供する
唯一の方法です。



以下によって実現：

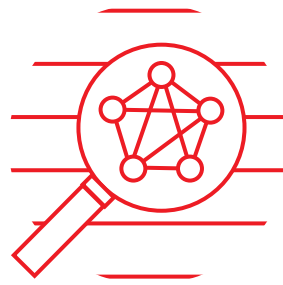
- 共通のデータ管理テクノロジーとアプローチに基づいて標準化
- 最新のテクノロジーによってデータ管理環境を最新化
- 真のハイブリッドプラットフォームを使用して最適化

#2



ユーザーにセルフサービス環境を提供

IT部門がボトルネックになる時代は終わりです。データ管理アーキテクチャにセルフサービス機能を組み込み、信頼性できるタイムリーなデータにデータサイエンティストや業務アナリストが自分でアクセスできるようにします。



以下の提供によって実現：

- データのさらなる品質向上と準備に役立つ、インテリジェントな提案
- レビューや評価、アドバイスをお互いに簡単に共有できる方法
- 簡単に検索して再利用可能な構成要素

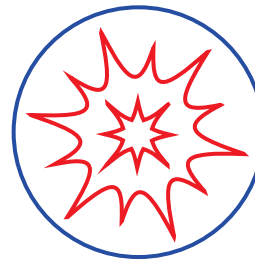
これらを適切に行えば、ユーザーが何を使用したり作成したりしているのか追跡管理できるようになり、データガバナンスを実現できます。

#3



テクノロジー導入に伴う複雑さの緩和

次にデータが爆発的に増加したときに何が起これのかは、
誰にもわかりません。



以下により、ユーザーの学習や利用に伴う
負荷を軽減：

- 基盤となっているテクノロジーの変更から開発者を切り離す、最新の視覚的デザインと開発アプローチを使用するとともに、あらゆるタイプの手作業でのコーディングを回避
- データへのアクセス方法をインテリジェントに管理し最適化するツールを導入
- 新しいデータベーステクノロジーの採用時も、最小限の再作業の手間で既存の設計を再利用できるようにするツールを導入

もっと詳しく

インフォマティカは、多くの企業がグレートデータを実現し、それぞれの業界で圧倒的な優位性を確保するための支援を提供してきました。このような経験から得た知識の一部を集めたのが、この電子ブックです。無償提供の本電子ブックをお読みになり、貴社に似た環境の企業がどのようにデータを活用して競争優位性を獲得しているのかをご確認ください。

[ダウンロードはこちら](#)





インフォマティカについて

インフォマティカは、プロセスの効率化と信頼できるビジネスインサイトの取得を可能にするデータインフラストラクチャを構築している世界中の大手企業をサポートしています。ビジネスを次のレベルへと引き上げる最新のデータアーキテクチャを構築したいとお考えなら、ぜひインフォマティカにご相談ください。

[お問い合わせ](#)
[はこちら](#)

出典

1. Economist Intelligence Unit--The Data Directive
2. Economist Intelligence Unit--The Data Directive
3. PWC:Seizing the information advantage、2015年9月
4. New York Times, "For big data scientists, 'janitor work' is key hurdle to insights," 2014年8月7日
5. Forbes, "Latest Enterprise Application Use Survey Results." 2014年7月